

令和元年度 栃木市広島平和記念式典中学生派遣報告会 (R1.8.29)

「元安川灯ろう流しの体験」 C班

・灯ろう流しについて 松山圭太 (寺尾)

灯ろう流しは、広島に原子爆弾が投下されてから三年後の、昭和23年から24年頃から始まったといわれています。

灯ろう流しは広島復興を祝うお祭りでした。8月6日は、朝からお昼までは死没者の霊を弔う日、夕方からは広島復興を祝うお祭りの日になったそうです。昭和37年頃には、6日の夜から3日間間に合計で2万個から3万個の灯ろうが流れていたのですが、現在は、6つの川の数か所から合計で1万個が流れています。

灯ろうには名前を書くのが一般的ですが、日本に旅行に来ている外国人が「平和への思い」を書くようになっていったそうです。そのため、灯ろう流しは「慰霊」と「ピースメッセージ」の意味を持つようになりました。

こうして、灯ろう流しは広島大切な行事となりました。私は、自分の平和への思いを灯ろうに書いたことで、改めて平和について考えられたので良い体験だと思いました。

・体験して心に残ったこと① 小野太雅 (皆川)

僕の元安川灯ろう流しを見た第一印象は、とても幻想的できれいだということです。日が落ちて暗くなった川辺に小さな灯ろうの光が広がり、その光が川に反射していました。テレビやインターネットなどの映像では味わうことのできない実際に現場に行って見てからこそその貴重な体験ができたと思いました。

また、一生懸命心を込めて書いた灯ろうが、僕の思いを乗せてゆっくりと無事に流れていき良かったと思いました。

元安川灯ろう流しには、世界中のたくさんの人々が参加していました。僕は灯ろう流しを通して、日本人の願いや思いだけではなく、世界中のたくさんの人々の願いや思いがかなってほしいと思いました。そして、世界中が核兵器のない平和で幸せな未来になってほしいと思いました。

・体験して心に残ったこと② 上岡将也 (藤岡第一)

元安川の灯ろう流しには、たくさんの方が参加され、川にはたくさん灯ろうが流れていました。灯ろう流しは、「慰霊」と「ピースメッセージ」の両方の意味を持つと聞きました。なかでも、「世界平和」という平和を願う文字が多く見られました。74年前、あの静かな街に原爆が落とされ、川が血で染まったことなど考えられません。二度とあのようなことが起こらない平和な世界になってほしいです。原爆で亡くなられた多くの方を追悼することができ、とても貴重な体験ができました。

・体験して心に残ったこと③ 上野つくし（大平）

私は、灯ろう流しを初めて体験させていただきました。この由来としては、広島「安芸門徒」特有の、お盆にお墓に色とりどりの灯ろうを飾る「盆灯ろう」と「精霊流し」の風習が合体したのが、現在の「灯ろう流し」だといわれています。私は、灯ろう流しに、核兵器が世界中からなくなる世界の平和を願い参加しました。灯ろう流しには、様々な国から観光に訪れた方々や地元の方々、地方から来た方々など、たくさんの方が参加していました。流れている灯ろうはすごくきれいで心が清らかになるような気がしました。この歴史が何十年後も何百年後も続き、そして人々の気持ちが届けば良いなと思いました。

・体験して学んだこと① 橋本心乃実（栃木南）

私は、灯ろう流しを初めて体験しました。灯ろう流しは、戦後間もなく、原爆で命を落とした人々の遺族の手作りで始まったのが由来だそうです。

私は、平和記念資料館や原爆ドームで目の当たりにした悲惨な光景の数々を思い出し、戦争を二度と起こしてはいけないという思いと争いのない平和な世の中にしていきたいという願いを灯ろうに込めて流しました。

灯ろう流しの会場は、たくさんの人で溢れており、平和への願いや原爆犠牲者への祈りが込められた灯ろうが静かに流れ、辺りは色鮮やかな灯ろうが幻想的な風景をつくり出し光り輝いていました。

私は、広島の地で灯ろう流しに参加し、原爆犠牲者や遺族の方々を思う気持ちが強くなり、よりいっそう平和への意識が高まりました。

これから、この経験を少しでも多くの人々に伝えていきたいと思います。

・体験して学んだこと② 駒場美咲（西方）

私が元安川灯ろう流しを体験して学んだことは、二つあります。

まず一つ目は、日本だけでなく世界各地からも世界の平和を願い、原爆犠牲者を追悼する方々が多く参加されていたことから、世界にも自分の国のことだけでなく、原爆について考えている人が多くいることを学びました。また、灯りがともされた灯ろうには、一人一人の平和を願う心が表されていました。平和を願うたくさんの灯りは、8月6日の夜の元安川を明るく照らしていました。

二つ目に、この体験を通して、改めて原爆は二度と使ってはいけないということ、戦争は絶対に起こしてはいけないものだということを学ぶことができました。このような、世界の平和を願う人々が世界に増えていくことで、戦争は減り、核兵器のない平和な世界になっていくと思います。